競技委員会　平成 27 年度計画詳細

【ボブスレー部】

第 1 回国内強化合宿　7 月 14 日（火）～20 日（日）（長野市　スパイラル）
第 2 回国内強化合宿　10 月 9 日（金）～12 日（月）（長野市　スパイラル）
第 3 回国内強化合宿　1 月中旬　（長野市　スパイラル）

4 月に開催された競技委員会で、ピョンチャンオリンピックには女子の強化を最優先に事業を展開することに決定したことから、世界でメダル・入賞を狙える走力・技術・メンタルに優れたブレーカーの発掘・育成に重点を置いて合宿を計画していく。ただし、男子においても 2022 年のオリンピックに向けて強化は継続して行うことが重要であるため、世界基準に照らし合わせ強化を継続していく。

第 1 回合宿では、現時点での強化指定選手、各トライアウトにおいて選抜された選手に対して陸上トレーニング、ウエイトトレーニング、プッシュトレーニングを実施する。

第 2 回合宿では、JOC 強化指定選手、各トライアウトにおいて選抜された選手、ならびに 9 月 20 日に予定されている全日本プッシュ選手権において、男子 3.80 秒以内、女子 4.20 秒以内をクリアした選手に対してプッシュトレーニングを中心に実施し、女子においては海外遠征メンバーを決定する。

第 3 回合宿では、海外遠征メンバーを中心にプッシュトレーニングを実施する。

第 4 回合宿では、スパイラルにおいて氷上滑走トレーニングを実施する。

２　トライアウト

第 1 次選考　8 月末までに各県連主催トライアウトにより選手推薦
最終選考　9 月 21 日（月）（実施希望）
日本連盟主催　選手発掘トライアウト（場所未定）

トライアウトについては、第 1 次選考トライアウトとして、8 月中までに各県連主催により実施する。第 1 次選考トライアウトの種目については、一昨年まで行っていた２０ｍ走・６０ｍ走・立 5 段跳・ベンチプレス・スクワットの 5 種目を実施し、各県連より選手を推薦してもらう。そして 9 月 21 日実施希望の選手発掘トライアウトにおいては昨年度より実施しているコンバインテスト種目を予定し、競技適正を見極める。

３　海外派遣

EC（前期）　11 月 1 日（日）～12 月 14 日（月）
EC（後期）　1 月 5 日（火）～1 月 31 日（日）
ヨーロッパカップに女子チーム（2 チーム）を派遣し、強化する。
男子海外遠征に関しては、ピョンチャンオリンピック後を見据え、今後考慮・検討する。

４　選考プロセス

昨年度はパイロット育成として女子 4 名、男子 2 名を海外遠征に派遣し、滑走トレーニングを行った。その結果、ピョンチャンオリンピックに向けては女子を重点強化することに決定した。ピョンチャンでメダル獲得の目標達成のためにはスプリント能力の極めて高いブレーカー選手の発掘が必要不可欠である。強化指定選手ならびにトライアウトにより発掘した選手を強化合宿に参加させ、昨年度より実施しているコンバインテストにおいて女子 560 点、男子 600 点をクリアし、プッシュボブスレーにおいて女子 4.20 秒以内、男子 3.80 秒以内をクリアすることが必須条件となる。強化指定選手においては各期毎に入れ替えを実施し、世界で戦えるナショナルチームを編成していく。

【リュージュ部】

１　強化合宿

① 国内冬季合宿 12 月 14 日-25 日　　・対象選手 ジュニア選手
② 海外強化合宿 10 月 5 日-2 月 25 日　　・対象選手 シニア選手

イタリアチームとのパートナーシップの確立・実践
・平昌オリンピックまでのイタリアチームとのパートナーシップの確立
・マテリアルなどの情報の共有によるチームレベルの底上げ
トライアウト実施による有望な新人選手の発掘と強化
・小中学生を中心としたトライアウトや体験会での選手発掘
・学校訪問やポスター掲示による広報活動
Jr 育成プログラムに準じた滑走トレーニングと国内滑走合宿の充実
・大会前の滑走合宿の実施（昨年度は予想以上の成果を得ることができた）
Jr 世代の継続的な育成・強化
・年間を通しての練習会、夏季合宿、コントロールテストを実施
・常に活動し続ける事での選手離れの抑制を図る

2　選考プロセス

① 強化合宿参加者選考
・強化指定選手およびジュニア選手を対象に行うコントロールテストと全日本選手権等の大会で選考する。
② 強化指定選手の選考
・夏期コントロールテストで 600 点以上獲得し、全日本選手権等で上位入賞している選手を対象にリュージュ強化部にて選考する。
③ 海外派遣の選考
・夏期コントロールテスト、全日本選手権等、国内大会の結果を参考にリュージュ強化部にて選考する。

【スケルトン部】

1　選考プロセス

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手は、以下の基準に基づき競技委員会で協議し、理事会に推薦・承認手続きを経て決定する。

【選考方針】

１．　日本代表として､十分な活躍が期待でき日本連盟が掲げる平昌五輪での目標を達成できる可能性を有する選手を選考する。

２．　日本代表として、将来の活躍が期待でき次世代を担う将来有望な選手を選考する。

３．　行動規範を遵守し、すべてに規律ある行動のとれる選手を選考する。

【派遣方針】

１．　ワールドカップには､平昌五輪で目標を達成する確率が高い選手､及び可能性のある選手を派遣する。

２．　インターコンチネンタルカップには､平昌五輪で目標を達成する見極めが必要な選手､及びワールドカップ出場枠を確保する為に必要な選手を派遣する。

３．　ヨーロッパカップ､アメリカンズカップには､国際大会経験の浅い将来有望な選手､及び将来有望選手のコーチを務められる選手を派遣する。

【出場に関する制限】

世界選手権、ワールドカップ、インターコンチネンタルカップに出場する選手は、過去 24 か月間に於いて 3 競技会場、5 大会（国際連盟主催大会）に出場していなければならない。

【選考基準】

１．マイケルヘッドコーチが選手評価したランク（A,B,C,D）を選考基準の基本とする。

【評価説明】

A（平昌五輪で目標を達成する確率の高い選手）、B（平昌五輪で目標を達成する可能性のある選手）C（平昌五輪で目標を達成する見極めが必要な選手）、D（平昌五輪で目標を達成する可能性の無い選手）

２．対象競技会

①平成 27 年度派遣選手選考プッシュ記録会と 30m 加速走・立ち幅跳び（8 月 22、23 日予定）

プッシュ記録会：スパイクシューズ使用不可、体重別プッシュソリ重量変動あり（23 日）

30m 加速走：スパイクシューズ使用有と無の記録測定（22 日）

立ち幅跳び：スパイクシューズ使用有と無の記録測定（22 日）

②平成 27 年度全日本プッシュ選手権（9 月 20 日予定）

プッシュ選手権：スパイクシューズ使用可、プッシュソリ重量共通

③平成 26 年度冬季国内外大会

（１）対象競技会の記録と成績から選手の能力を見極め選考する。

（２）対象競技会の記録と成績から次の事を行う。

①マイケルヘッドコーチが選手評価したランク選手の能力の見極めとその妥当性の検討

②①の結果から選手の派遣競技大会の検討

③EC,AC 派遣男女の選手選考の検討

（３）対象競技会①②には、選手の能力を見極める為に派遣目標タイムを設定する。

①派遣選手選考プッシュ記録会　（男子 5.35～5.39 秒、女子 5.90～5.95 秒）

②全日本プッシュ選手権　（男子 5.20～5.24 秒、女子 5.75～5.80 秒）

（４）上記の選考基準で判断出来ない場合には、競技委員会の協議によって選考する。

【人材開発部】

①JBLSF 主催トライアウトの実施

・６月か７月のどこかで、関東地区、関西地区の２ヶ所において実施

・場所、内容、告知、その他は、競技委員会にて相談の上決める

②従来各都道府県連盟において実施しているコントロールテスト、またはトライアウトへの協力

・アンケートにより、各都道府県連盟の実施状況とその内容、そして今後の実施予定を確認する

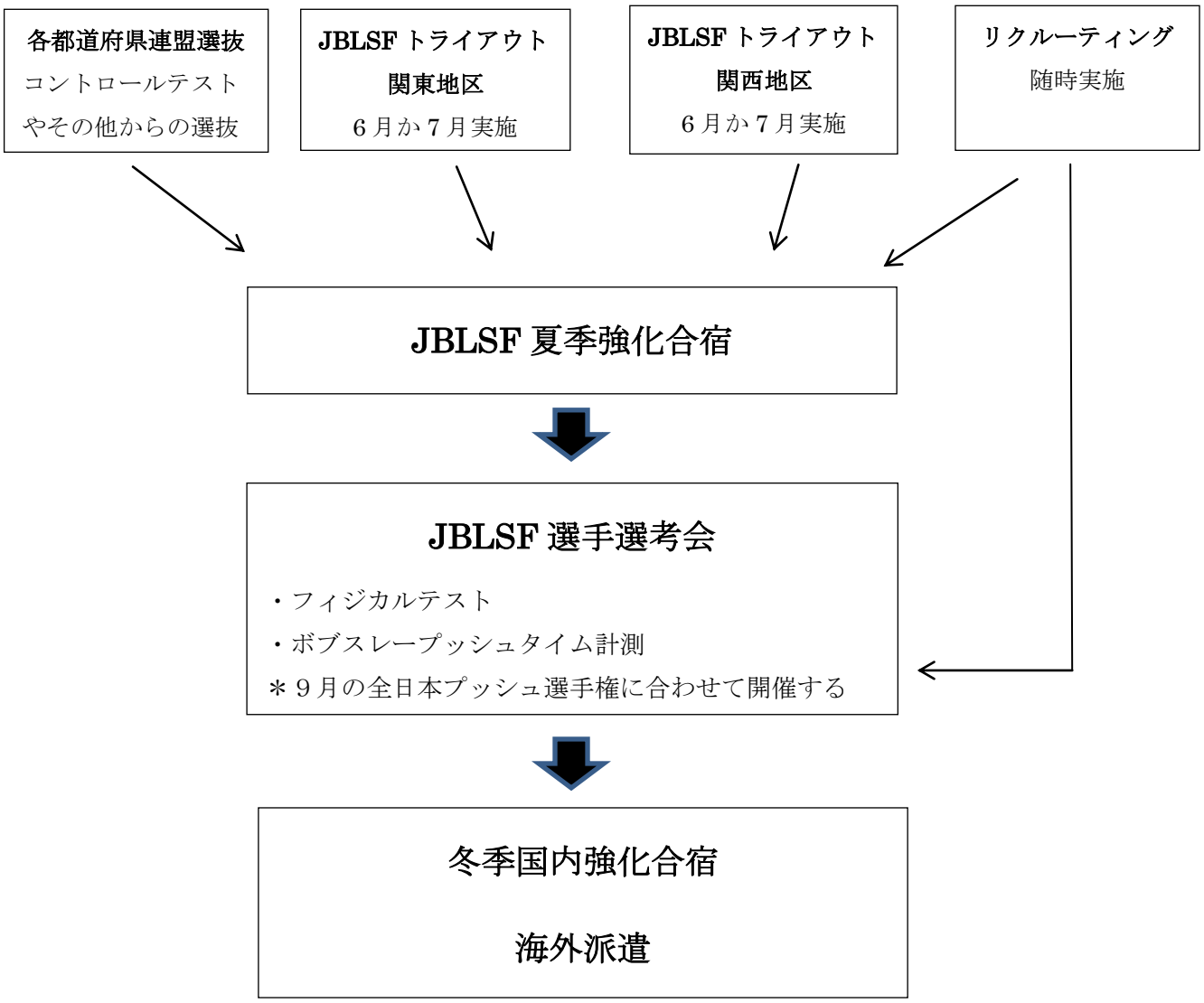
・協力する、または出来る内容を確認精査する

③選手リクルーティング

・各競技団体、企業、学校、競技会に出向く

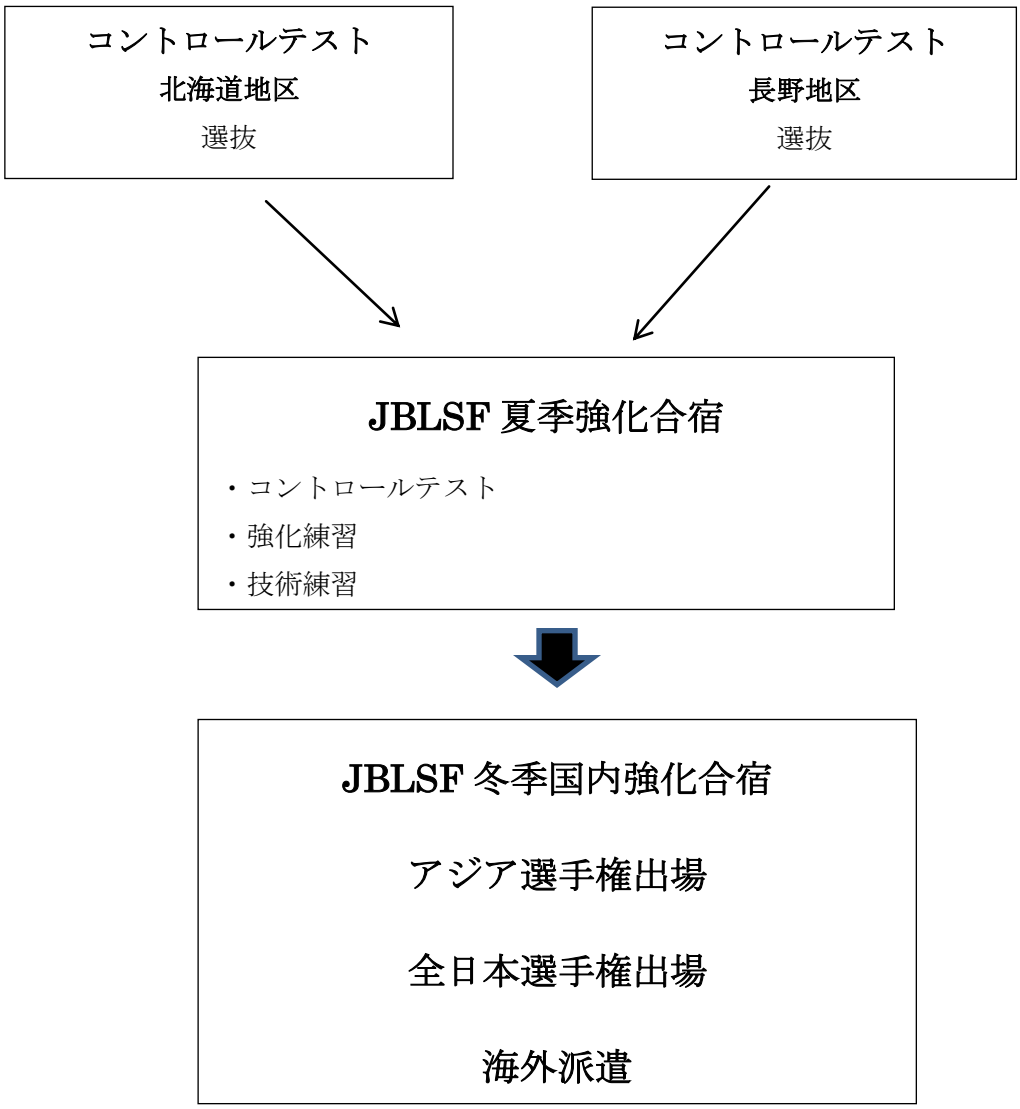
・各競技部会と連携し、競技部会が求める選手の発掘

平成２７年度　JBLSF 選手発掘フローチャート（ボブスレー競技）



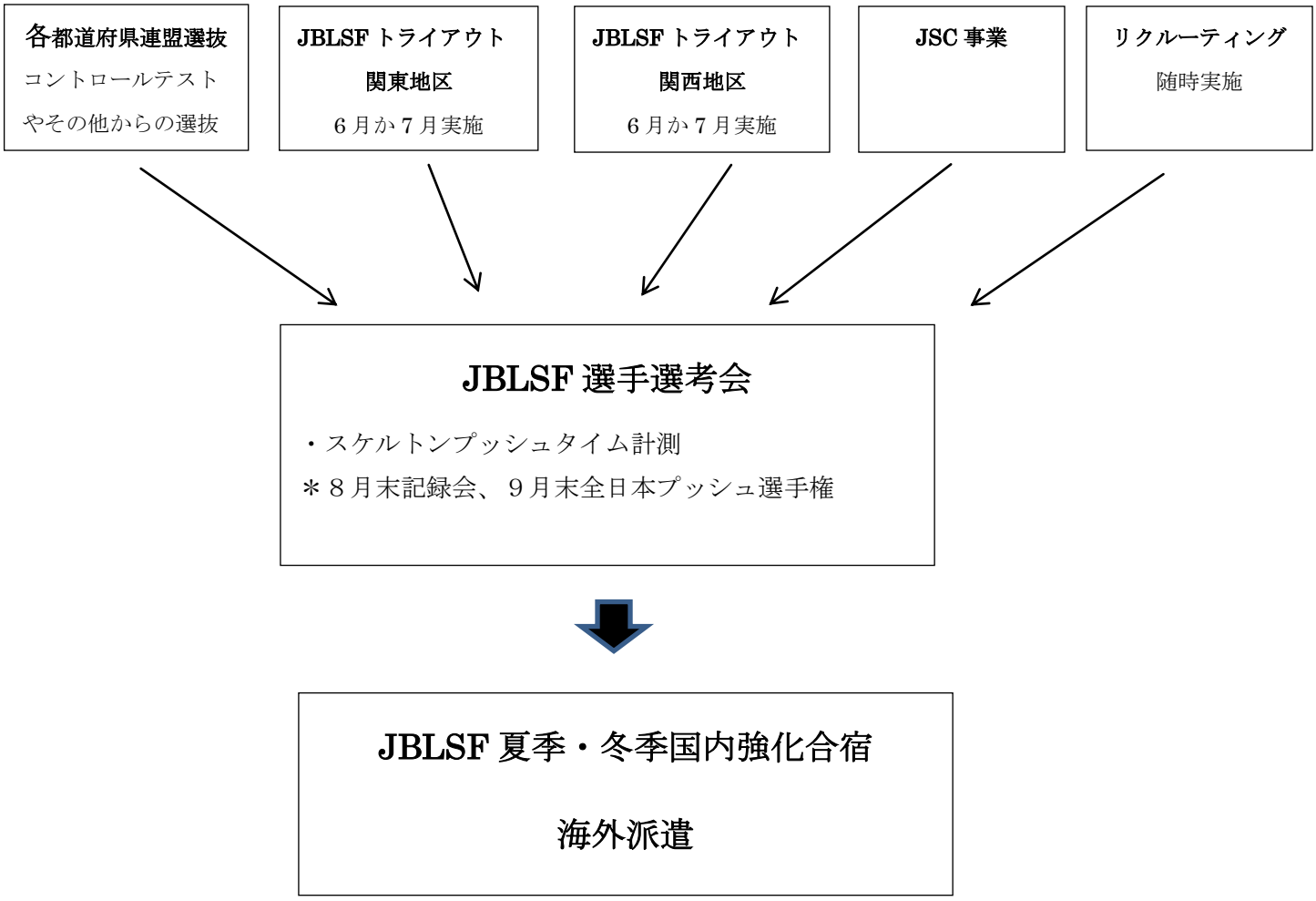
【懸案事項】
・各都道府県連盟コントロールテスト実施の有無と実施内容の確認（含む今年度予定）
・JBLSF トライアウトの詳細（日程、場所、測定項目、その他）
・選考基準値の設定（記録、点数、身長、体重、その他）
・評価方法
・選考選手の強化策や資金面などを含めた選手の待遇

平成２７年度　JBLSF 選手発掘フローチャート（リュージュ競技）



【懸案事項】
・各都道府県連盟コントロールテスト実施の有無と実施内容の確認（含む今年度予定）
・選考基準値の設定（記録、点数、その他）
・評価方法
・選考選手の強化策や資金面などを含めた選手の待遇

平成２７年度　JBLSF 選手発掘フローチャート（スケルトン競技）



【懸案事項】

・各都道府県連盟コントロールテスト実施の有無と実施内容の確認（含む今年度予定）
・JBLSF トライアウトの詳細（日程、場所、測定項目、その他）
・選考基準値の設定（記録、点数、身長、体重、その他）
・評価方法
・選考選手の強化策や資金面などを含めた選手の待遇

【指導者養成部】

1　目的

各競技種目において、優秀な人材を指導者に当てるために指導者養成事業を展開し、今後の冬季オリンピック大会や国際大会において成績をあげるための方策の一助となることを目的とする。

2　活動方針

・日本体育協会並びにＪＯＣと協働しながら、公認コーチ・公認上級コーチ資格取得を推進する。
・連盟と日体協と連携して、専門科目研修の運営・実施を推進する。
・連盟独自によるクリニック研修会を計画・推進し、指導者の質向上に努める。
・連盟公認による強化スタッフ選定のあり方について提言する。

3　事業内容

・ナショナルチームやジュニアナショナルチームの指導者には、公認資格を有する者を当てることを原則とし、2018 年ピョンチャン五輪までに指導者養成事業の確立を目指す。
・日本体育協会上級公認コーチ資格、並びにＪＯＣナショナルコーチアカデミー修了証を取得したものを、今後のナショナルチーム及びジュニアナショナルチームの監督・コーチとして原則的に任用する。ピョンチャン五輪時のスタッフは、全員が資格取得者となることを目標とする。
・日本体育協会公認コーチ資格を取得したものを、県単位での海外遠征や選手育成他のコーチとして原則的に任用することとし、ナショナルチーム・ジュニアナショナルチームのスタッフの任用条件とする。
・2017 年度までの期間は暫定期間と考え、資格取得中のスタッフも監督・コーチとして原則的に任用することとする。
・公認資格取得者に対して、クリニック研修を開催する。本年度は実施しない予定である。

4　上級公認コーチ・公認コーチ取得希望者の受講について

(1)　公認コーチ

・毎年度 11 月末日に対して、各連盟から公認コーチ受講希望者を募集する事とし、競技委員会の承認をもって日体協へ推薦する事とする。
・来年度から 2018 年度まで、以下に該当する者を暫定的な措置として受講できる者とする。
・公認コーチ資格を取得した後に、上級公認コーチ資格を取得することができるものとする。ただし上級コーチは競技委員会による審議の上、推薦されるものとする。

① 公認コーチ受講者

1) 本連盟加盟団体の都道県連盟に所属し、本連盟所属選手の強化に努めることができ、今後指導者として連盟活動に寄与する意思がある者
2) 所属都道県連盟が推薦する者
3) 本連盟加盟団体の都道県連盟に所属し、且つチーム遠征に帯同し、国内大会や海外遠征での指導経験がある者
4) 日本連盟競技委員会にて推薦され、日本連盟理事会にて承認された者
5) 以上のいずれにも該当する者は、所定の手続きを持って、公認コーチ受講を希望できる。

(2)　上級コーチ

・毎年度 11 月末日を目処に、競技委員会にて上級コーチ受講者を選定し、その承認と本人の同意をもって、上級コーチ受講希望者として日体協へ推薦する事とする。

・来年度から 2018 年度まで、以下に該当する者を暫定的な措置として受講できる者とする

①　上級公認コーチ

1) 本連盟加盟団体の都道県連盟に所属し、本連盟所属の指定強化選手の強化に努めることができ、ナショナルチーム・ジュニアナショナルチームの指導者として連盟の活動に寄与する意思がある者

2) 日本連盟競技委員会にてナショナルチーム・ジュニアナショナルチームの指導者として推薦され、日本連盟理事会にて承認された者

3) 以上のいずれにも該当する者は、所定の手続きを持って、上級公認コーチ受講を希望できる。

(3)　専門科目について

①免除科目に関しての検討

・規定により、以下の免除が認められている。上級コーチ受講者について免除科目を検討し決定する。

・レポート(その他 8 時間)は、必修とする。

※連盟と日体協で交わされている「一定の実技・指導実績等を有する者」について

(1)国際大会等で特に優秀な成績を収めた者で、コーチとしての資質、能力が優れていると認められた者

(2)国外での資格取得者（Jury 等のライセンス）

②専門科目講師他の決定

・公認コーチにおける専門科目（集合 40 時間、その他 20 時間、総計 60 時間）の講師の選定を行う。

・公認上級コーチにおける専門科目（集合 20 時間、その他 20 時間(レポート通信 8 時間含む)の講師の選

定を行う。

※上記は、免除科目を除いての講師選定とする。

※日本体育協会との協議の上、実施する。

③専門科目におけるレポート評価

・競技委員会（指導者養成事業部）にて評価者を複数名選定し、その評価を受けるものとする。

④専門科目合否判定について

・競技委員会が作成・出題し、筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定とする。

(4)　その他

・平成 25 年度に、本連盟と日本体育協会により交わされた締結書に基づき、27 年度の事業を継続実施する事とする。

・次年度以降の取得希望者について、11 月を目処に各都道県連盟に通達する予定である。

・日本体育協会連絡先

〒150-8050　東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館 2 階

″スポーツ指導者育成部″ coach@japan-sports.or.jp　℡03-3481-2226　FAX03-3481-2284

5　専門科目における講習・試験免除

専門科目における講習･試験の免除

一般社団法人日本ボブスレー･リュージュ･スケルトン連盟

競技委員会

1. 一般社団法人日本ボブスレー･リュージュ･スケルトン連盟が主催した(定める)指導者講習･研修を受講した者。受講した内容程度に応じ、一般社団法人日本ボブスレー･リュージュ･スケルトン連盟競技委員会が審査の上、免除科目を決定する。

2.　一定の実技･指導実績等を有する者

下記の者については、公益財団法人日本体育協会と一般社団法人日本ボブスレー･リュージュ･スケルトン連盟競技委員会が内容･程度を審査の上、免除項目を決定する。

（1）　国際大会等で特に優秀な成績を収めた者で、コーチとしての資質、能力が優れていると認められた者

（2）　国外での資格取得者(Jury 等のライセンス)

6　専門カリキュラム作成様式

公認ボブスレー・リュージュ・スケルトン上級コーチ

区分	カリキュラム内容		時間数		
	No.	科目	集合	その他	計
①種目の特性に応じた基礎理論	1	ソリ競技のトップマネジメント	2h	2h	4h
	2	最新トレーニング科学	4h	1h	5h
	3	ソリ競技トップアスリートのコーチング	2h	1h	3h
	4	ソリ競技トップアスリートの長期指導計画	4h	4h	8h
	小　計		12h	8h	20h
②実技	1	トップクラス選手のスタート･滑走･ソリ性能分析	8h	4h	12h
	小　計		8h	4h	12h
③指導実習	1	代表チーム強化論(レポート)	0h	8h	8h
	小　計		0h	8h	8h
合　計			20h	20h	40h

公認ボブスレー・リュージュ・スケルトンコーチ

区分	カリキュラム内容		時間数		
	No.	科目	集合	その他	計
①種目の特性に応じた基礎理論	1	ソリ競技の歴史・発展論	2h	0h	2h
	2	ソリ競技における競技種目の特異性	2h	1h	3h
	3	ソリの構造とメンティナンス	2h	2h	4h
	4	ソリ競技のトレーニング科学	2h	0h	2h
	5	ソリ競技のコンディショニング	2h	0h	2h
	6	ソリ競技における安全対策	2h	1h	3h
	7	ソリ競技におけるルールと審判法	2h	1h	3h
	8	指導理念(ドーピング・パワーハラスメント・セクシャルハラスメントへの認識)	2h	1h	3h
	小 計		16h	6h	22h
②実技	1	ソリのスタート技術	2h	0h	2h
	2	ソリの滑走技術	2h	0h	2h
	3	ソリのセッティングとメンティナンス	2h	0h	2h
	4	ソリ競技に必要な陸上トレーニング	4h	2h	6h
	小 計		10h	2h	12h
③指導実習	1	各種機器を用いたスタートの技術指導	4h	2h	6h
	2	ソリの維持・管理方法	4h	0h	4h
	3	年間トレーニングプログラムの立案・・実施内容・評価	6h	10h	16h
	小 計		14h	12h	26h
合 計			40h	20h	60h

7 日本連盟各強化部強化スタッフ選定に関する提言

これまでオリンピック強化スタッフは、各所属都道府県連盟にて推薦された者を、日本連盟が承認するという形を取ってきた。しかし、実際に実働していないオリンピック強化スタッフがある等、実情とスタッフ名が乖離している現状が見られた。また各種目強化部長が把握していない強化スタッフもあり、競技委員会での審議が為されない状態で、JOC へ上程されているという状態でした。

従って、各都道府県連盟からコーチングスタッフとして出された者の中から、オリンピック指定選手強化スタッフについて競技委員会にて確認・承認し、その結果を日本連盟を通じて JOC へ申請するという形にしたいと考えている。

各都道府県連盟推薦強化スタッフ

↓

各強化部長によるオリンピック強化指定選手強化スタッフ選定

↓

オリンピック指定選手強化スタッフ決定